

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会（夜の部） 議事録

日 時	令和2年2月19日（水）19：00～20：20	場所	ヒスイ王国館2階ホール
件 名	(1) 義援金の配分について (2) 復興まちづくり計画の進捗と評価について (3) 復興関連工事の予定について (4) 駅北広場の開設について (5) 駅北まちづくり会議について (6) その他		
出席者	糸魚川市	米田市長、見辺産業部長、五十嵐市民部長、丸山消防長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、渡辺企画定住課長、大嶋商工観光課長、川合福祉事務所長ほか職員	
	被災者関係者	5世帯7人（被災者関係者以外の一般参加者7人）	
	報 道	1社	
会 議 要 旨			
1 開 会			
2 あいさつ (米田市長)	(昼の部と同じ)		
3 全体説明			
説明(1)	(1) 義援金の配分について (質疑なし)		
説明(2)	(2) 復興まちづくり計画の進捗と評価について (男性1) 4月から駅北広場に今の復興まちづくり情報センターの機能が移ると聞いていますが、それでよろしいですか。 (斉藤復興推進課長) また後程、ご説明いたしますが、その通り駅北広場に機能が移るということで進めております。 (男性1) 復興まちづくり情報センターは被災地区の活性化に大変寄与しています。センターの職員の方から地区の活性化に大変尽力していただきました。機能に加え職員の皆さんもキターレの方へ移るということでよろしいですか。 (斉藤復興推進課長) ご評価いただきありがとうございます。地区の活性化に向けた取り組みは、駅北広場の方で集落支援員が担っていくということになります。ただし、人については、今の方がそのまま移るかはまだ確定していません。 (男性1) 現在のセンターの職員の方が、そのまま移るということまでは決まっていないということよろしいですか。 (斉藤復興推進課長) まだ決まっておりません。		

説明(3)	<p>(男性2)</p> <p>にぎわいの拠点施設についてですが、駅北に住んでいる住民はナルス糸魚川が閉店して買い物に難儀している状況です。できれば、にぎわい拠点施設の構想としてスーパーマーケットを作ってもらいたいと思っています。市から全面的に力を出していただき、土地を取得し有利な条件で市内の事業者さんに土地をお貸しして経営するなどしてもらえば、高齢で交通の足のない方には大変助かります。構想のなかの一つに加えていただき、できるだけ実施の方向に持って行っていただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(米田市長)</p> <p>ナルス糸魚川店の閉店は買い物をする方に影響が大きいわけでございます。午前中もそのような話がありました。具体的なご助言をいただき、ありがとうございます。買い物をどうすればいいのかというのは、にぎわいの拠点施設のなかでも調査・研究の中に入れていきたいと思っています。</p> <p>(男性2)</p> <p>ありがとうございました。ぜひ、研究の中に入れていただき、糸魚川市が全面的にバックアップし、糸魚川のまちをつくって行っていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。</p> <p>(3) 復興関連工事の予定について</p> <p>(男性3)</p> <p>昨年10月23,24日ですが、海望公園のトイレで不審火がありました。1日目は私がボラティアで子どもを連れて行ったときに発見し、2日目は犬の散歩をされていた方が見つけました。公園には監視カメラがありません。今後の計画に本町通りなどの照明灯の整備があります。できれば何か所かトイレも含め防犯カメラをつける考えがあるのかお聞かせ願います。</p> <p>(大嶋商工観光課長)</p> <p>本町通り商店街の部分について説明させていただきます。最初に説明いたしました義援金の配分のなかで、商店街の再建支援として防犯カメラについても支援させていただいておりますので、本町通り商店街の中で設置いただくこととなります。なお、中央通り協和会についても支援させていただくこととなっております。</p> <p>(五十嵐建設課長)</p> <p>海望公園につきましては、警察の方とも相談をしております。夏場には水や東屋があったりということで不審な方が寝泊まりするという良くない状況も起きかねないと思っています。現在、カメラの設置について検討しているところですが、前向きに実現するように進めてまいります。</p> <p>(男性3)</p> <p>もう1か所、駅の南口の駐輪場で、さきほどの2週間後に、たばこの吸い殻やライター、食品の容器、中学校の制服上下が放置されていました。JRとの関係もあるかと思いますが、こちらもカメラの設置の考えはありますか。</p>
-------	---

(五十嵐建設課長)

南口の駐輪場で、吸い殻や制服が放置されていたところまでは、承知していませんでした。風紀的に悪い状況でもありますので、駅構内には何か所かすでに設置されていますが、カメラがカバーしているエリアなのかどうか確認させていただきます。

(男性1)

資料のなかに、にぎわいの拠点施設検討とありますが、今何を検討されているのか、もう少し具体的に説明をお願いします。

(齊藤復興推進課長)

現在、復興の先を見据えた駅北のまちづくり戦略の策定に取り組んでいます。まち全体をどのようなまちにしていくかという検討のなかで、拠点施設についてもどのような役割を持てるのかというところを方向性として、戦略のなかで位置付けられるかという検討を行っているという状況です。

(男性1)

当初、防災とにぎわいの拠点施設としていたものが、子育て支援を中心とするにぎわいの拠点というふうに変更してきたという説明がされてきたと思いますが、それが具体的にどうなるのかというのがわからない状況です。何回か発言もしていますが、大町2丁目の住民にとってはここがどうなるのかということが大変な関心事です。もう少し、具体的な見通しをお示しいただけませんか。

(米田市長)

当初、にぎわいの拠点という形で、復興まちづくり計画の中に位置付けさせていただきました。復旧だけでなく復興していくことがこの大火での使命だろうということで入れさせていただきました。大火から年を明けて2月から計画づくりに入り、その中で、やはりここを中心として、にぎわいの拠点を作っていきましょうということで進めてきましたが、にぎわいというのはなかなか簡単にいくものではないということもあるわけで、それをどのように進めていけばよいかというなかで、取り組んで参りました。

行政の連携も取れるものは何か、市民の皆様方、そして商店街の皆様方と連携をとっていかないと、ただ行政だけで出来るものではないわけでありまして。ハードは、国の補助などを得られれば出来る物ですが、仏を作っても魂が入らないと、それが機能しない部分がございます。それをどうやっていくかというのが非常に活性化や地域づくりの中では、一番の肝だろうと思っています。それを今、この後に説明させていただきますが、駅北まちづくり会議の中で、論議をしていただいております、それを詰めていく中でまとめていきたいと思っております。

当初は無かったのですが、駅北広場キターレというものも生まれてきているわけでありまして。そういった中で、どうしていけばいいのかというのがあり、ご承知の通り、各自治体の非常に財源が厳しい中でやらなくてははいけません。

そして、大火の中で取り組む中においては、私の視点としては、失敗は許されないと考えております。それが逆に足かせになってはいけないと思っておりますので、これは少し慎重に扱わせていただきたい。スピードをもって取り組んできたもの

もあるわけですが、やはり時間をかけて皆で、まとめていくということも大事なのではないか、住んでいる人たちにとっても良いものでなくてはいけないのではないかと考えています。

後程また、ご説明させていただきますが、まちづくりの中でこういった形がいいのかというのもご論議いただいております。そういったものをまとめていただくなかで、拠点施設については捉えていきたいと思っております。

(男性1)

そうすると駅北まちづくり会議の中で論議していくという解釈でよろしいのですか。

(米田市長)

駅北まちづくり会議の中で、推進会議とか実践会議の中で、そういったところを捉えて論議していただいております。駅北まちづくり会議は、全体的にとらえてやっていますが、当然それとこれとは別というわけではなく一体として捉えて論議していただいているわけですので、その中である程度方向性を出していただき、その方向性の中で、そういった会議に加わった方々が、その中に加わって活躍していただけるのではないかと考えています。

(男性1)

理解できましたが、確認をしたいのは、子育て支援を中核とする、にぎわいの拠点。これには変わらないですね。

(米田市長)

その辺も含めてです。子育てについては、子どもたちがいることによって、活力や活気が出てくる部分がございます。そして今、市といたしましても、そういったところが、少し手狭になっているというところがあるわけがございます。

ですから、そこにそれをつくるというのが目的ではありますが、そういった課題も抱えているからそれも含めれば、いかがかなという形で提案をさせていただきました。

それだけで出来るかどうかは、私は心配な所がございますが、これも複合的になっていくのがいいのかなと思っておりますが、あくまで私案でございますので、そういったところと、財政的な面と、色々やっていけなくていけないと思います。ただ我々はやはり、この被災地域をいかに復旧していくか復興していくかというところで進めているわけございまして、ここで全てそれを完結できるような当初計画どおりには行かないことも起きるかもしれません。しかし、それはやはりハードだけでは駄目で、ソフトというのは大事というのを基本にして進めていきたいと思っております。

(男性1)

ありがとうございました。私は個人的には、子育て支援を中心とするという考えには大賛成なんです。糸魚川に無いですから。若い母親、子ども、保育園の子どもから小学生中学生、こういう子どもたちも含めて、1ヶ所で読書をしたり交流し合う、そういう場や施設、これは糸魚川にはありませんから、子育て支援を中核とする拠点には大賛成です。ぜひ、具体的に進めて、実現をしていただきたいと思っておりますが、大町2丁目の場所でもありますので、住民にとっては、どうな

<p>説明(4)</p>	<p>るのかというのが大変重大な関心事なので、たびたび私は、こういう機会に発言をしておりますのでよろしくお願いします。</p> <p>(米田市長)</p> <p>まさしくそういった期待を持っていただいていることは、うれしく思うわけですが、そのみならず、全体を捉えて、復興まちづくり計画の中で捉えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>(4) 駅北広場の開設について</p> <p>(女性1)</p> <p>高齢者の立場からですが、新しくできた所を回ってみてもトイレが少ないですね。それで、皆さん散歩して体を動かして下さいって言っても、途中でトイレ行きたくても行けないからついつい出かけるのが億劫になるという話もよく聞きます。それで、このキターレの話聞いたときに、開館している時間は、トイレを貸してくださいと飛び込んでもいいのでしょうか。もし、そこがお借りできればいいのですが、まちなかを見ると牛の所ありますよね、そことあとほとんどトイレが見えません。普通、若い人だと結構歩けるのですが、年を取ってくるとだんだん大丈夫と思っても途中でどこかで借りるしかないっていう心配が、私たちの周りの年配の方から話が出てくるので、キターレができれば、飛び込んでもいいのかもしれないという話をしているのですが、いかがでしょうか。</p> <p>(齊藤復興推進課長)</p> <p>お話ありがとうございます。貸してくださいではなく、ぜひお使いください。基本的にはオープンです。先ほども話しましたが、例えばホールで何か会議とかやって他の人がちょっと入りづらくなっていう場合もあろうかと思えます。エントランスもそういった使い方もあるのですが、その時にはトイレのお客様が来たら使わせてあげて下さいということも約束しながら、皆さんに自由にお使いいただけるトイレという位置付けで考えておりますので、遠慮なくお使いいただければと思います。</p> <p>(米田市長)</p> <p>補足いたしますが、キターレは、基本的にはみんなが集まっていたく場所ですので、料金が発生するのは、ここで会議をするとかイベントをするとか、そういった利用でございまして、普通にお出でいただいて、大火の記録を見るようなこともあると思いますが、そういうのは無料でございまして、ぜひお越しただいて、ベース968の皆さんと会話していただいたり、色々できる場所であると捉えていただきたいと思います。</p> <p>(男性4)</p> <p>広場に緊急車両が入るようにしてありますが、特に夜などに間違っ、普通の車が通り抜けて行かないような対策はお考えですか。また、タバコや犬、猫はどうするのか今後の課題としてやっていただければと思います。</p> <p>(齊藤復興推進課長)</p> <p>緊急車両用のスペースですので、それ以外の車両が自由に出入りできないよう</p>
--------------	---

に配慮しています。

説明(5)

(5) 駅北まちづくり会議について

(男性1)

昨日の糸魚川タイムスに、リノベーションスクールの事が一面に載っております。先ほども高齢者の買い物難民という観点でのお話がありました。この報道によりますと、リノベーションスクールの三つの部会があって、そのうちの一つ、ユニットAという部会で旧マニラを担当したユニットAが発表したと。それは、「ナルス糸魚川店が閉店、鮮魚などの生鮮食料品を買える店舗が姿を消した現実を踏まえ、駅北雁木横丁プロジェクトと題し、人の集う生鮮市場などを提案した」とこうあってですね、これを読んで、これはいいことだと思いました。大町2丁目の一人暮らしの80歳を過ぎた高齢者が、何人もおりますので、ナルスが閉店したことで大変に困っています。まだ大町区で、じゃあ地域でどうやって、お互いに援助し合うかということまでは、まだ区の段階では行っていません。正直言いますとね。これはしなきゃならないと思うのですが、そう思っている矢先にこういう報道があったものですから、これはいい事だと思ったのですが、具体的な日程とか規模とかが一つもないですね。したがって、今、大町2丁目の女性の中で、何人もの方たちが、これはもういい事だけど、どの程度の物で、いつ頃からなのだろうねというような、話が持ちきりになっています。そういう疑問にお答えいただきたいのですが、民間なので分からないなら分からないで結構です。

(齊藤復興推進課長)

先週末のリノベーションスクールで、そういった提案がございましたが、提案が本当に実現するかどうかはわかりません。というのは、まだ内容を細かく事業計画も含めて詰まっているわけではありませんので、やろうと言ってくれたそのユニットのメンバーがこれから、もう少し事業計画とかを磨き上げて、もう一度またオーナーさんに提案しながら、そのオーナーさんとの話がうまくいって初めて実現に動くという形になります。なので、今、いつまでに、こういった事ができるかというのはわからない状況です。

(男性1)

私が聞きたいのは行政としてどう援助していくのか。こういう方針に対して。行政の考えをお聞きしたいと思います。

(米田市長)

アイデアとしてはいいアイデアだと思っています。しかし、どの程度まで調査しているのかというのは、可能性があるという形の中で出ております。商売をするための支援策もあるなかで取り込めるかどうか。これは特別だから特別な援助をしなくてはいけないという事になってくると、そう簡単にはいかない部分もございます。

ただ、今のまちのなかを見ていく中で、こんな事ができるのでないかという中で、アイデアを出していただいているところでもありますので、もしそういう方向で行けるといふ形になればいいと思いますし、そういったところに、今度弊害が

出てくるのではとかいろいろあると思います。

今の段階では、リノベーションスクールの中で出ているアイデアという捉え方でおりますので、まだ具体にはなっているものではなく、可能性はあるという受け止め方をしています。

(齊藤復興推進課長)

このリノベーションスクールを進める一つの基本の中に、補助金に頼らないというものがあります。民間の力で、そういった事業を起こして継続できるかというところが、空き家がそういった場にしていこうというプログラムですので、実際に動く時に、お金だけではなくて、市としてどういう支援ができるかというのは、今後の話というふうにご理解いただければと思います。

(男性1)

買い物に行けなくて困っているんです。広い通りまで行けない。80歳半ばの一人暮らしのお年寄りが何人もいます。そういう人たちがいるので、あえて質問しているのですが、何とかありませんか。

(米田市長)

今回の被災者関係者説明会の中で、買い物の問題につきましては、また、違うところで捉えていきたいと思います。これは、まちの中心地だけではなくて、山間地も今そういう状況が起きています。そういった中で捉えていかななくてはいけないと思っていますし、だんだん無くなっていくことは本当に危惧していることですが、これはもう商売でございまして、そこに行政が入っていけるかは非常に難しいと思っております。そういういろんな支援の中で交通の足をどう確保していくとか買い物に行く事についての支援はできますが、店を作っていくとかそういうところは、なかなか難しいものがあるかと思っています。

(女性1)

商工会議所との提携はあるのでしょうか。このような事をやってみたいという情報の提供とかはあるのですか。

(齊藤復興推進課長)

商工会議所からもリノベーションスクールの運営については、中に入っているだけでありますので、商工会議所も承知の話です。ただ、先ほど申し上げた通り、基本的には民間の力で民間で動き出して民間で継続できるというところをまずスタートに始めている。そこをスタートとして、提案を作りましょうというプログラムなので、今は、あのような形で提案として出てきていますが、まだまだ熟度を上げていかななくてはいけない。その熟度が上がった中で、行政なり会議所なりが、どのような手を差し伸べられるのかというのは、また今後の話ということでございます。

(米田市長)

今、全国でリノベーションの取組が行われており、それが基本的には行政が支援しながらやったとか、行政がやる事業においてはコストがかかって負担になってきているところがあるというのが、ベースにあります。そうした事とは逆に、あまり資本をかけないで、ある施設や、ある物を使いながら、細々と、またグル

ープが集まって、みんなで立ち上げていくという考え方でやっております。

糸魚川においても、空いた店舗をいかに利活用できるかというのを考えながら、皆さんから集まっていただいて、色々な使い方が出来るのではないかという形で、それが出来ても運営出来なくては困るので、それは住んでいる人たちと連携をとっていくという形や道筋ができないと、ただ出来る、出来るねという捉え方だけでは、スタートがなかなか出来ないと思いますので、その辺も考えていただかないといけないと思っています。そうした考え方で糸魚川なら面白くて、こういう形ならできるねという人たちに集まって来ていただいています。

また、住んでいる方の中でもそういう気持ちを持っておられる方も、生まれてきている気がしていますので、そういうところをみんなで話し合いながら、住んでいる人達にも喜んでいただけるような物になるように探っていきたいと思っています。そして、行政としては何が出来るのかというところで、加わらせていただき、みんなで作っていかなくてはいけないということで、スタートしている事業でございます。

(女性1)

私達年配の人が集まって、ここで買い物が出来れば自分たちも助かりますが、駅北は私たちだけのものではないのではという気がします。駅を下りたら、必ずどこか眺めますよね。でも現在、仕方ないのですが、食事をしたい買い物をしたいと言ってもどこへ案内したらよいかわかりません。するとだんだん、他から来た人や山間地などからいらっしやった方にもここに来て何も無いねと。たまたまどこかから来た人に私が付いていたら、「お昼を食べたいけど、どこにもないから仕方ないから直江津まで行こう」と言うんです。後ろに付いていたら切なくなって、どうしたらいいのだろうかと思いましたが、なかなかそういうものが無いと、にぎわいが出来ないというような考えが出てきて、ぜひここ駅北を賑わすのは、ここの人たちだけでなく、全体にとってプラスになるのではないかと思うのですが、そういう意味からも、ぜひ住んでいる人が意気揚々と生きられたり、或いはたまに病院に出てきたり、市役所に用事に出てきたりする人が、あそこ行けば、にぎわいがあると感じられるような方向に行けないのかとつくづく思います。

もう一つ、話に移るのですが、高齢者がいつまでも活躍できるまちを考えるとこの第4回実践会議に、今まで出たことはなかったのですが、何も分からなければ何も意見も出せないので聞きに行きました。その時に、大阪から来られた講師の方が、講演して下さいましたが、非常に高齢者がいらっしやる部分に着眼されて講演して頂いたら、何となくじっとしては駄目なんだという感覚だったんですよね。

だから、年をとっても出来る何かという物が目に見えてくると、何となく動いてみようとなるのですが、今の状態だとこのままじゃいけないというのは、どんどん広がるのですが、それをどこへ探って行けばいいのかというのが見えません。それがみんな辛くて、さらに駅北がどんどん寂れて行くのを見てると辛いよねという話が出てきているので、是非そういう点も考慮し、やっていただき

たいと思います。それと、この間の実践会議ですが、本当に今までの講演は出てあまり持ち帰るものが無いなあという感覚だったのですが、この時は本当に何となくぼやっと何かが見えそうという感覚だったので、主催された方々にお伝えいただければと思います。

(米田市長)

まさにその通りかと思います。何をしてもらえるかということではなく、自分たちは何をやるかでない、魅力が出てこないのではないのでしょうか。どちらかという行政は、プランを作ったり、机上で経験の無い中で情報収集しながら、やっているところが一番多いのかなと思っています。

実際は、皆様の方が経験をしたり、知識を持っておられる事がありますので、私はこういう事ができるとか、私はこういう事がしたいということがあった方が、より動きやすい部分があるかと思っています。

そういったところをこれから詰めていければ有難いなと思っています。今、子どもたちは、共稼ぎの中において学校側が終わってから両親が帰ってくるまでの時間はどうすればいいのかということになると、教育をされた関係者とか、そういった子どもたちの面倒を見る知識を持った方であるとか、アイデアを出していただいてもよいわけです。

また、皆様方の情報を集めて、こういった品物が欲しいということで生産者の方とか、そういう事をやって頂くと非常に効率の良いものが提供できることもあろうかと思っています。そうした部分を皆で探り合っていないと、だんだん人口が減ってきて商売をやっても商売にならないからやめているので、そこにまた出て行って商売をやってくださいと言っても、なかなか難しいところがあります。

そして残念なのは、食事をする場が無いというのがあって、糸魚川に来て何も食事をする所が無いじゃないと言われるのがつらいところです。最初から無いのであれば何とかして作ろうとなるのですが、あったものが無くなるという事になると、次に入る人たちは躊躇してしまうので、それをどう変えていくのかということで、若い人たちが入ってきてくれるという気持ちを持ってくれるのは非常にありがたい。情報を出しながら、みんなでやっていく環境をつくり、スタートする時には、あまり重い荷を背負わないでスタートする方が長続きするのではないとか、やはりそういった初動、スタートをうまく切って行けるように、そしてお客さんが喜んでいただける環境というものをみんなで作っていただければありがたいと思っています。本当に難しい問題で、私たちは生活するには物が必要なのですが、どのように提供できるのか、また足も考えながら、そういった提供する人たちを取り込んでいけるようなものにしていきたいと考えております。

説明(6)

(6) その他

(男性4)

駅北広場の中に40ミリの消火ホースを実際に使えるよう、誰もが体験できるようにすれば、糸魚川だけでなく外から来た人が「あ、こういう物があるんだね」というのが見ていただけるのではないのでしょうか。試しにやってみるといっ

な格好にしていいただければよいと思います。

(丸山消防長)

40ミリホースは消火栓を使って操作するため、駅北広場には大きな防火水槽はありますが、消火栓はありませんのでBOXを置くというのは可能ですが、常に使える状態というのは難しいのではないかと考えていますので、展示等のなかで紹介するなど考えていきたいと思っています。

(男性4)

あそこにありますだけではダメで、実際に体験してみることによって分かるのだと思います。

(丸山消防長)

駅北広場では、展示とか防火水槽の紹介等の中で、PRをしていきます。また、40ミリホースの利用については、確におっしゃる効果があると思いますので、放水体験車等を利用しながら各地区で出向いて体験していただく活動も引き続きやっておりますので、そういった中でまた紹介していきたいと思っています。